さて，栃本は荒川の最上流部の部落である。ここに登山口がある十文字峠を越えると長野県だ。長野市出身の私は，川に沿って上流をにらみ，"川上村は，あの山の向こうだ。"と思うと，何んとはなしに，にやりとした。

大滝村も，過疎の村である。最近はやりの民宿に手を出して，観光の村で再建をはかろうというのが村役場でのお話しであった。しかし東西に走る峡谷で空は狭く，面積も狭い，20度近くもある傾斜地の農業は，見ただけでも，楽ではないことがわかる。ここでもグループ別に土地利用調査を行った。

好天に恵まれ，スムーズな日程で3日間が終わり，4日目は，荒川河床で断層を観察し午前中に解散になった。

今回の巡検は3ヵ所でのグループ別調査を中心に荒川沿岸のさまざまな土地利用，生活をみた。さらに個人別に15人が，15の視点から荒川沿岸を研究し，それをまとめている。15人の協力で，どんなものができるだろうか。

（浅海先生・斎藤先生指導　　3年　小林　世子）

会津・郡山巡検（１０月３日～６日）

10月3日14時30分，ジーパンにセーター，肩にはリュックサックと，おなじみのスタイルで会津若松駅に集合。いよいよ2度目の巡検のはじまりだ。さっそく市内の漆器工場を見学。現在では，漆器製造は，完全分業によって行なわれており，その全部を，産地問屋がとりしきっているとのことであった。後継者養成学校を建設したり，そこでは，伝統産業保存の為，さまざまな努力がなされていた。丹念な蒔絵の工程を見学して，漆器製造は工業である以前に，芸術であることを心から感じた。

4日の午前中，漆器工業団地で漆器の製造過程を見学した。ここには土産物コーナーがあり，ブローチ・ペンダント類がみんなの人気を集めていた。その後市役所で，主に漆器産業に関する質問を行なったが，ここでの話し合いで，会津若松市の産業は漆器工業を抜きには語れないことを，充分に理解した。左に磐梯山，右に猪苗代湖をみながら，汽車の中で昼食をとった後，東京電力の丸守水力発電所を見学。この丸守発電所をはじめ，猪苗代湖の水を利用して東京電力だけでも4水系15の発電所があるのだそうだ。その日の夜は，郡山市の老人センターにとまった。私達は市民宿舎と聞かされていたので，老人センターとわかった時には，いささかびっくりしてしまったが，今考れてみるに，もっと老人達と言葉を交して，老人の目にうつるその土地の様子，変遷等を，聞き取れたら，ずいぶんとよかったのかもしれない。

5日は，郡山市役所を訪れ，市の歴史，新産業都市指定要因，施政方針，安積疎水等，さまざまな事柄について，詳しい説明をおうかがいすることができ，みんなの質問にも熱がはいる。職員の方のお話から，新興都市郡山をますます発展させる為，市民が一体となって開発をすすめている様子がよくわかった。伝統産業である漆器産業にほとんどを依存し，歴史を思わせずにはいられない会津若松市に比べ，郡山市のなんと漸新なことか。なんとなくイギリスとアメリカを連想させた。午後は，安

積疎水受益農村を，市役所のマイクロバスで見学し，一日の予定を終えた。この日も前日と同じく，老人センター三森荘にとまったが，最後の晩ということで，みんなでこっそりとコンパをやった。夜遅くまでこうしてクラスの仲間と，なごやかにおしゃべりできるのも，地理科ならではである。

6日,巡検最後の日，郡山市内のコパル精機を見学して，計画全部を終了した。今回の巡検は，主に工業地理学的な観点から行なったものであるが，一見数学的とさえ思える工業地理も，こうして現地に実際に行ってみて見学することにより，とても人間くさい感情のかたまりが，工業化の基礎にしっかりと根づいていることを理解することができた。最後に，私達をやさしく，熱心に御指導くださった先生に深く感謝したい。

（内藤先生指導　　2年　石黒　令子・渡辺　公江）